

学び合いの姿

対話の中に起こるPDCAサイクル

2019.12.09

No.84

校長 渡邊 幸二

若い頃、初めて1年生を担当した時の、今なら笑えるエピソードがあります。確か集団行動の練習をしていた時だったと思います。体育館のある場所で整列を終えたかわいい38名の1年生の子どもたちに、

「次は、ステージの前に集まって並ぶよ。わかった？」

「はい！」

「じゃ、よーい、どん。」



子どもたちがステージめざし走っていくことを想像していたのですが、まるで鬼ごっこが始まったようにてんでバラバラに動き始めた1年生…。1年生に物事を教えることの難しさを知りました。そして、わかってなくとも、子どもたちは元気に返事をしてくれることも学びました。

一斉指導の中で起きている impress

昔よく見られた**教え込み型の一斉指導**では、1年生で起きたような現象が、おそらく日常茶飯事、どの学級でも起きていたのではないかと思います。

「この問題はどうかかりますか？」

「……………」

「実は、こうやって……………」と先生が持っている答えを披露するような授業。

先生は子どもたちにもやらせ、そしてこう言います。

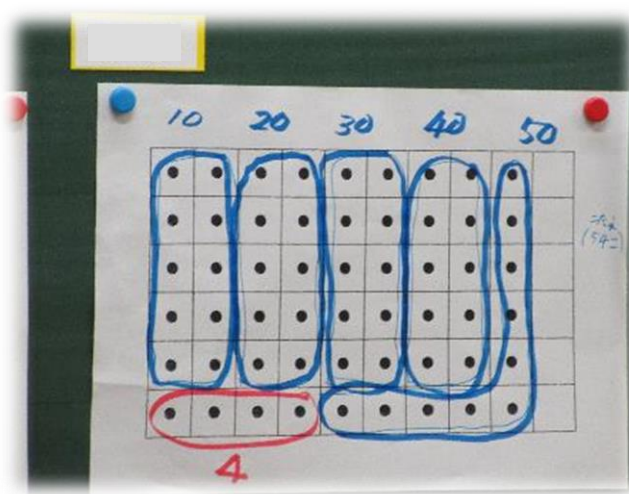
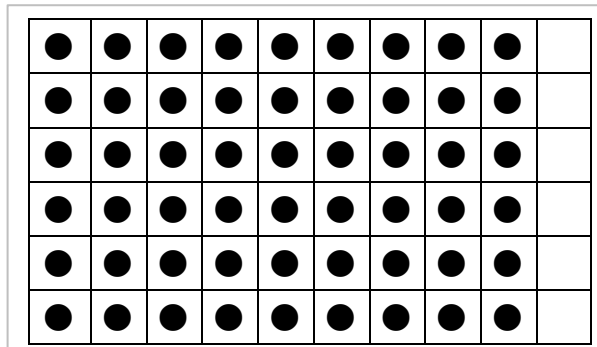
「やり方、わかったな。」

練習問題をやらせてみると、問題を解けない子どもがけっこういる…。

「何でわがねなや！ここはこう考えて…」と押しつけ・**教え込み(impress)**。恥ずかしながら、まさしく過去に私がやっていた授業風景です。

今求められている「主体的・対話的で深い学び」とは？

今年の1年生、K学級の子どもたちには、そんな **impress** という姿ではない**学び合い**が多くみられます。



先日は「くふうしてかぞえよう」の学習で、子どもたちには上のようなドット図が渡されていました。2年生であれば $6 \times 9 = 54$ （または 9×6 ）で数えられますが、1年生ですので「くふうしてかぞえよう」となるのでしょう。

前頁の写真のように「10のまとまりにして」数えるというのがメジャーでしょうが、中には1段ごと、 $9+9+\dots$ の発想の子どももいたようです。

そして、H. Kさん。彼の発想はユニークです。空いているマスにあえて●を書き込んで、10ずつの段を作って数えるものです。(書き込めるマスが準備されていたのもミソ！)

これを考え付いたことはすばらしいと思うのですが、他の1年生がそう簡単にこれを理解できるわけではありません。案の定“わからない!”という状態になりました。ところが、そこで先生自らが説明をしようとはしませんでした。自らがKさんの代わりに説明し「みんな、

わかった?」と先生が問えば、きっと「はい!」という返事が返ってきて、すごい考えをしたか?とさんを褒め称えおしまい…。子どもたちは消化不良のまま、その時間を終えるという私の失敗と同じ授業になったことでしょう。

そこでK先生は、Kさん他、その考えを理解できた子どもたちを各グループに派遣し、説明させ理解を促していました。そして、大概こういう場合、1年生だろうと6年生だろうと「あーだ、こーだ」の議論(対話)が生まれます。

探究型の学習はPDCAサイクル!?

そのくるくる回るような対話の中で、実はPDCAサイクルのような状態が、つまり「こういうこと?(P&D)、ダメ…(C)、じゃあ、こう?(A)」という学習が展開されているのだと思います。そして、やがてだんだんわかり始める…。

私は、この認知の仕方が非常に重要なのだと思うのです。impressではない、友だちの考えを訊く・聞く活動(input)と、それを表現して見せる活動(output)のくり返し、わが校で行っている「学び合い」です。

ジャンプの課題に対して子どもたちが挑み、この対話がかくるくる回りながら認知や思考が深まっていく様子は、何となく理科の実験のホウ酸を溶かす様子に似ていると思うのです。そう簡単には溶けないけど、くるくる回しているうちに徐々に溶けてくる…そんなイメージです。

子どもたちが「深く」学ぶためには、この少々面倒くさく、遠回りのようなくるくる回る過程が絶対に必要です。先生に教えられた通りではない(impressの学びではない)、自らがその知識や技能を獲得していく営み。しかも友だちと協働的に学びながら学習し、思考・創造していく営み。我々大人に身についていることも、たとえば「自転車に乗る」ことも、「魚を釣る」「サッカーの試合で勝つ」ことも、そんな人とのかかわりの中で、くるくると思考をめぐらせ獲得してきたもののように思います。

これからも「主体的・対話的で深い学び」を進めていくために、今、浜田小学校で展開されていることを大切にしていきたいと思っています。

